授業科目	教育実習Ⅰ（不開講）					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	4	開講時期	通年
担当教員	未　定						
授業概要	これまで学んできた理論や方法などの知識および教え方の技術などを基にして、中学校・高等学校での教育指導や教育活動で実践的な経験を重ねながら教育現場への理解を深める。実習を通して教師としての資質の向上を図り、実践力を養う。						
授業形態	実習				授業方法		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 実習校の教員の指導に従って学習指導案やその他の計画を作成することができる。 2. 実習校の教育方針を尊重しながら、実習生として自らを律し行動することができる。 3. 実習校の教育目標や指導方針、学校行事等に配慮しながら実習生としての責務を果たすことができる。 4. 英語以外の授業も可能な限り参観し、実習校の教育活動全体を把握することができる。 1. 実習校の教員の指導に従って学習指導案やその他の計画を作成することができる。 2. 実習校の教育方針を尊重しながら、実習生として自らを律し行動することができる。 3. 実習校の教育目標や指導方針、学校行事等に配慮しながら実習生としての責務を果たすことができる。 4. 英語以外の授業も可能な限り参観し、実習校の教育活動全体を把握することができる。
理想的レベル	標準的レベルの１から４の全てを達成した上で、常に自らの課題を見つけ、その課題に積極的に取り組んでいくことができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	15%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	15%	
レポート外の提出物		
その他	70%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	EN44118J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
	1

授業計画

第１回	高等学校において、以下の内容について教育実習を行う。 １．高等学校の概要 ２．学校組織活動 ３．教科の授業計画

	４．教諭の職務計画 ５．学級経営と生徒指導 ６．授業観察 ７．指導案の作成と学習指導 ８．評価の方法 ９．実習の指導 １０．個別指導と集団指導 １１．教育者の資質向上と研修方法 １２．その他
テキスト	指定なし。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	必要に応じて紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	上記の「評価方法」の「レポート」は教育実習記録及びレポート、「発表」は本学の実習校巡回担当教員が参観した授業や模擬授業、「その他」は実習校の校長及び指導教諭による教育指導及び教育活動の評価を指します。
学生へのメッセージ・コメント	これまでの教職課程の授業で学修した知識と身に付けた技能。 ○ 実習前には、事前指導のオリエンテーションが行われる。必ず参加して心の準備をしてください。また、事後に開かれる実習報告会では実習を終えた者に貴重な経験を語っていただきます。 ○ 母校で実習を希望する者は、春休みや夏休みなどに母校を訪ねて、4 年次に教育実習を希望する旨を先生方に伝えてコミュニケーションを保っておくことが大切です。4 年次には、実習に入る前に、直接学校を訪問するか、電話等で期間中に担当する学年や教科書の種類、教科書の範囲等を訊いて、事前に教材研究をしておきましょう。 ○ 実習中には、数種類の学習指導案の提出を求められるので、前もって教案の素案を用意しておくと、実習中に速やかに担当教諭の指導を受けることができます。また、担当する個所を教えるのに必要な教具や教材を前もって準備することで、肝心な授業の準備や練習、生徒との交流により多くの時間を充てることができます。